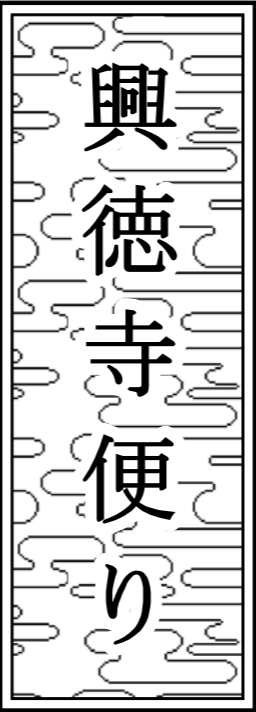


わからない いつ燃え尽きるのか

冠頭の詩

杉村春苔

人生は一本の長いお線香です
刻々の現在に生命の火を燃やして
消えていく未来は？
わからない いつ燃え尽きるのか
それはいつでもいい
私はそのつきるまで
即今唯今を燃やし続ける
高く高く登る煙をあげ度
清く永く広く香る
匂いをのこしたい
(残り10行略)



第136号 (復刊第61号) 令和4年お盆

杉村春苔尼(1902-1977):仏教詩人・坂村眞民さんが心の師として尊敬していた尼僧さん。神戸の貿易商の娘として生まれ、市内の醸造酒家の男性と結婚したが、突然出奔、その後出家する。坂村眞民の詩集「生きてゆく力がなくなる時」の中で春苔尼のことが紹介され、この詩の全文が掲載されている。



母が亡くなりました。
5月28日、いつものように笑い、話しました。夜、会合があったので寝かしつけて出かけ戻ってきたのが9時半頃、母は目を覚ましていて、トイレに行きたいと言う。介助したところシャツが汗でびっしょり濡れていて着替えました。ベッドに戻ると息遣いが荒く手足が冷たい、フツンの中に手を入れてやるのですがなぜか出してしまふ。それで私の体温で温めてやろうと、母のベッドにすべり込み、「ダイジョウブだよ」と言いながら右手を握っていたらやがて静かになってきて、私も夢の気がついたのは夜中の1時、電気もつけっぱなしで、自分のふとんに戻りかけたところで、瞬間母のことを思いだし、見たら

「死んじゃっている・・・」
その瞬間を上手く表現できません。体を揺さぶって「お母ちゃん起きて〜！」と泣き叫ぶ場面でしょうが、そうはなりません。一言でいうなら「嘩然・・・人はこんな風に簡単に死ぬのだ、と思いました。」
日蓮聖人・妙法尼御前御返事の一節——人の寿命は無常なり、出る気は入る気を持つ事なし風の前の露尚譬えにあらず、かじこきもはかなきも老いたるも若きも定め無き習いなり、されば先臨終の事を習うて後に他事を習うべし——
最期の時は間違ひなく来ます。考えたくないかもしれませんが、そこを意識することが、今をしっかり生きることに繋がるように思います。そして夢想でもいいから自分の最期に思いをめぐらしてみるもイイ。95歳の母親が72歳の息子と添寝し手を握りながら逝ったなんて、ちょっと出来過ぎだなぁと思いつつ、「死んで自分はこの世を逝くか。」

お盆のお経廻りの予定

- 7月26日 稲子〜芝川・大久保
27日 (午後) 精進川
28日 下条、青木 29日 青木
30日 (土) 万野原新田・栗倉・大岩・村山・舟久保町・小泉、由比、内房、大久保
31日(日) 富士市・希望者
1日 青木・馬見塚・外神
2日 貴船町・淀師・穂波町・淀川町・中島町・泉町・大中里・宮原
3日 西町・宮町・大宮・宝町・豊町野中・星山・源道寺・田中町
4日 北山・上井出・山宮・富士見ヶ丘・柚野 5日 柚野
6日 (希望者のみ) 7日(休)
8日〜柚野

*当方の都合で日付変更もあります。
*泰然か泰潤のどちらかが伺います。
*変更を希望する方は ご連絡ください。

今年新盆を迎える檀家さん

Table with 5 columns: No., Name, Age, Birth Date, Residence. Lists 12 families.

7月26日〜27日に泰然が伺います。

住職のひとりごと



今回は母のことばかりで申し訳ありません。49日忌も無事終え、今は新盆の準備といったところですが、不思議なことに未だに涙の一滴も落ちません。母のことを思わない日はなく、永遠に触れることができないということはない。ただ後悔はひとつもないので、ひとつの時間の流れとして受け止められているのかとも思います。母を中心として妹たち家族、息子、友人たちが寄り添ってくれたこと。いつも母を喜ばせようと、気を遣ってくれたこと。これがあって14年もの間、「要介護2」がキープできたのだと思います。いつも一緒に笑う事、スキンシップ・・・母から学んだことを皆で共有できたこと、改めて心より感謝！です。
*「花まつり」が終わってお盆までは比較的自由な時間が取れる期間で

タイゼン・ケイタイ ; 090-2180-8591

「死んじやっている・・・」
その瞬間を上手く表現できません。体を揺さぶって「お母ちゃん起きて〜！」と泣き叫ぶ場面でしょうが、そうはなりません。一言でいうなら「嘩然・・・人はこんな風に簡単に死ぬのだ、と思いました。」
日蓮聖人・妙法尼御前御返事の一節——人の寿命は無常なり、出る気は入る気を持つ事なし風の前の露尚譬えにあらず、かじこきもはかなきも老いたるも若きも定め無き習いなり、されば先臨終の事を習うて後に他事を習うべし——
最期の時は間違ひなく来ます。考えたくないかもしれませんが、そこを意識することが、今をしっかり生きることに繋がるように思います。そして夢想でもいいから自分の最期に思いをめぐらしてみるもイイ。95歳の母親が72歳の息子と添寝し手を握りながら逝ったなんて、ちょっと出来過ぎだなぁと思いつつ、「死んで自分はこの世を逝くか。」
*8月16日、恒例の「川施餓鬼」子どもたちを集めてのイベントは止め、今年も泰潤と「施餓鬼法要」を行います。「餓鬼」という世界で苦しむ霊にお経と食べ物・飲み物を施すことよって功德を積ませていただき、参詣者すべてのご先祖様の供養をいたします。卒塔婆を準備いたしますのでどうぞお申し込みください。また法要の灯を頂いての伝統のタイマツ行事は実施いたします。歩ける方はタイマツを持って川まで行きお焚き上げをしましょう。タイマツ行列に参加できる方はお申込みください。
*今回のイラスト、宮原の檀家さん、赤池佳代さんです。【泰然記】



母との最初の2ショット

芳枝さんのこと

母が興徳寺に嫁いできたのは昭和23年、清水市の大きなお寺の長女でしたが空襲で焼け出され境内に建てられたバラック小屋に家族11人が住んでいるところへ、父が単身乗り込み(?)その時を含めてたった2回会っただけで、結婚!でした。口説き文句は「お米のご飯を腹いっぱい食べさせます」かくして右の写真のような花嫁衣裳を着たまま、東海道線~身延線と乗り継いで



西富士宮駅から木炭タクシーで興徳寺へ。以来73年。穀物以外は自給自足のよう田舎生活は苦労もあっただけですが、お産以外は寝たことのないという丈夫な体と持ち前の明るさで乗り越えてきました。最大の悲しみは次男の事故死だったと思いますが、それをきっかけに私が「ブラジルから戻ってお寺継ごうか?」と言った時は「ワッ、嬉しい!」と言ってくれました。



.....14年前、認知症となりました。

(↑81歳の頃、心からの笑顔はありません)ただ「要介護2」という軽度の状態を最後までキープできたことは幸いでした。過去の嫌なことをすべて忘れ、楽しかった思い出だけが残りました。怒り・妬み・欲などの煩惱は消え、残った感情は嬉しい、楽しい、おいしい、ありがとう.....不安は一切なく、いつも笑って過ごしました。まさにシアワセのエッセンス!



「認知症もいいもんだ.....」と思わせてくれました。



(左上と左の写真は愛知県桑名市の写真家・加藤澄子さん提供、桜の写真は全日本写真連盟「人間大好きフォトコンテスト」に入賞した作品で1年間全国で展示された後パネルを頂きました)「お母さん、しあわせですね」と言われると嬉しそうに「はい」と答えていましたが、本当にしあわせだったのは私のほうです。 泰然記



夏~秋の予定

8月16日(火) 施餓鬼法要~川施餓鬼

川で亡くなった方の霊に対する供養として行なわれてきた伝統行事です。毎年たくさんのお子様たちに参加してもらい盛大に開催してきましたが、コロナ禍の中、今年も大人を対象の「施餓鬼法要」を行います。「施餓鬼」とは「餓鬼」の世界で苦しんでいる霊に対し、お経とともに食物・飲物を供養し救いの手を差し伸べ、私達が功德を積ませていただく法要です。お参詣の方々のご先祖様のご回向も併せて行います。どうぞお申込みください。

《プログラム》

14:00 タイマツ製作

16:30 施餓鬼法要:本堂にて

18:00 点火~タイマツ行列~芝川にて焚き上げ

19:00 解散

8月28日(日) 写経と唱題行 15:00~ 写経 16:00~唱題行



興徳寺をきれいにする日

6月13日は「興徳寺をきれいにする日」でした。30名の参加者が、境内の草刈り、植木の剪定、本堂のお掃除等に汗を流してくださいました。おかげさまで内外がすっかりきれいになりました。ありがとうございました。次回は7月24日、7時集合9時までです。できるお仕事で参加してください。



「彼岸花」の開花前にすべての草刈りをします。8月29日頃から9月3日頃。都合のつく方、少しの時間でも結構です。ご協力ください。